



ろうさい病院つうしん

発行所: 中部ろうさい病院

〒455-8530 名古屋市港区港明1-10-6 TEL: 052-652-5511
https://www.chubuh.johas.go.jp/ FAX: 052-653-3533

当院の理念

納得、安心、そして未来へ

当院の基本方針

- ・医療の質の向上と安全管理の徹底
- ・生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- ・人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- ・地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- ・災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供

副院長就任のご挨拶



副院長 原田 憲

盛夏の候、皆様お変わりありませんでしょうか。平素は当院の診療にご理解いただきありがとうございます。ご挨拶です。

丸井副院長の退職に伴い、令和5年4月より副院長、並びに救急部長（兼任）を拝命しましたことをご報告申し上げます。なお循環器内科の診療も引き続き行って参りますので、これまで同様、暖かいご支援をお願い申し上げます。

さて、救急部長としての使命は、地域の皆様に質の高い医療を提供し、安心と信頼をお届けすることと考えています。新型コロナウイルス感染症への対応も変換期に入り、未知の事象も多いですが、先生方のご経験や知識に学びながら、より一層の救急外来の充実を目指していく所存です。

また、病診連携の重要性も強く感じております。地域のニーズに合わせた医療サービスを提供するためには、協力と情報共有が欠かせません。今後は先生方とより緊密な連携を図り、合同カンファレンスや意見交換の場を再開したいと考えています。

我が国の地域包括ケアシステムの構想では、慢性期の患者は在宅で診ていくことが望まれています。高齢化に伴い、今後在宅患者は増加することが予想され、訪問診療などによる介入は必須になると考えられます。先生方との連携は、この地域の医療にとって不可欠です。

今後より良い医療を追求し、皆様に信頼される病院であり続けることを目指していきます。この地域の医療に貢献できるよう精進していきたいと思っております。どうぞよろしくようお願い申し上げます。



メディカルサポート センター長就任のご挨拶



院長補佐 篠田 典宏

盛夏の候、病診連携の先生方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

長年に渡り中部労災病院を支えてこられた丸井副院長が今年の3月で退職され、4月から院長補佐としてメディカルサポートセンター室長をさせていただくことになりました循環器内科の篠田典宏と申します。

中部労災病院へは2012年に赴任させていただきました。

赴任後は、労災病院にて不整脈治療のカテーテルアブレーションの立ち上げが私の任務となりました。

立ち上げるにあたり、港区を中心とした近隣の先生方に当院においてもカテーテルアブレーションを初めることをご挨拶に行かせていただきましたが、このような経験を通して病診連携の大切さを理解いたしました。

先生方には診療でお忙しい中、大変温かく私の説明を聞いていただき本当にありがたく思っております。

ご紹介していただいた患者さまは、何回でも治療経過を文書にて説明し、可能な限り速やかに逆紹介を行う方針で行なっておりました。

そうすることで少しずつ先生方との信頼関係が築けていけたのではないかと思っております。

その結果、先生方から紹介も少しずつ増え、現在では1年に約150人の患者さまを治療させていただけるようになりました。

病診連携ではこうした信頼関係が最も大切なものと考えております。

メディカルサポートセンター室長となった現在は、循環器内科だけでなく病院全体を見ていく立場となりました。

他科の医師も病診連携の重要性は理解されておりますが、多忙につきご紹介いただきました患者さまの診療経過説明が遅れてしまうことなどあるかもしれません。その際は、遠慮なく連携室の方までご連絡いただくと幸いです。

また、C@RNA Connectを使用したインターネットでの予約も環境はずいぶん整ってまいりました。

今後も運用方法の改善をしていくなどしていきたいと思っておりますので、ご意見がありましたら連携室の方へご連絡をいただくと幸いです。

最後になりますが、循環器内科医としてもこれからも頑張っておりますので、これからも変わらぬご支援ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

看護部長着任のご挨拶



看護部長 佐藤 信枝

4月1日付けで、看護部長に着任しました佐藤信枝です。よろしくお願いいたします。

中部ろうさい病院には新人看護師から育てていただきました。2018年から関東労災（2年）・浜松労災（3年）に看護副部長、看護部長として勤務しました。この5年間は他施設を知り視野が広がるとともに、中部ろうさい病院を客観的に見ることができた貴重な経験でした。その間に新型コロナウイルス感染症が蔓延し、コロナ禍の3年間は浜松労災病院でコロナ対応を経験しました。ようやくコロナも落ち着き通常の医療体制に戻りつつあります。

前回の診療報酬改定により、病院の機能分化が進み、より急性期病院に求められる役割が明確になってきています。入院治療終了後の生活を見据え、早期からの退院支援、転院調整が必要になってきています。当院では昨年度MSC（メディカルサポートセンター）が開設され、地域の皆様が安心して入院生活を送れること、住み慣れた地域へ帰ることを目標に、入院前から退院を見据えた支援に力を入れています。入退院支援部門に看護師を配置し、多職種（看護師・薬剤師・メディカルソーシャルワーカー・事務等）が協働し専門性を発揮した支援を開始しています。また病棟看護師と退院支援看護師の退院前訪問や退院後訪問も実施し、患者さんの退院後の生活も支援しています。今後も地域の施設との連携を強化し、地域の皆様が安心して生活できる支援を実践していきます。

看護副部長およびメディカルサポートセンター副センター長就任のご挨拶



看護副部長 鈴木 陽子

盛夏の候、皆様におかれましては、ますますご隆昌のこととお慶び申し上げます。

平素よりご紹介を賜り、厚く御礼申し上げます

このたび看護副部長兼メディカルサポートセンター副センター長を拝命しました、鈴木陽子と申します。私は、25年前当院に就職し、看護師として働き始めました。新人の頃は、辛いことも多くありましたが、同じ志を持つ先輩と看護を語るようになり、いつしか看護の面白さに魅了されていきました。その中で強く実感したことは、いつでも中心には患者さんが存在し、それぞれの専門職が最高のスキルを発揮することが、退院後の患者さんの生活を豊かにするという事です。これまでの経験が私の基盤になっています。

社会では、団塊世代が75歳以上となる2025年を目処に地域包括ケアシステムを構築することが掲げられ、病院完結型医療から地域完結型医療へと変化しつつあります。また、地域では、連携システムの構築、患者の症状に応じた医療の提供が推進されており、高齢者が住み慣れた地域で自立した日常生活を送れる社会の実現が掲げられています。当院でも、昨年度メディカルサポートセンター（地域医療連携、入退院支援、医療相談、がん相談）を設置し、入院前から退院に向けて関わるようになりました。しかし、まだ効率的に機能しているとは言えない状況であり、今後さらに地域と密に連携していく必要があります。当院が、急性期病院としての機能をはたせるように、メディカルサポートセンターが何をすべきかを、メディカルサポートセンター長を中心に、病院が一丸となり日々精進していきたいと考えております。

若輩者のため至らぬ点も多く、皆様にはご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、皆様のお力添えを頂きながら当院の発展のために尽くしてまいります。

今後とも一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

診療科スポットライト

斜視で悩む患者さんに 寄り添える外来診療を



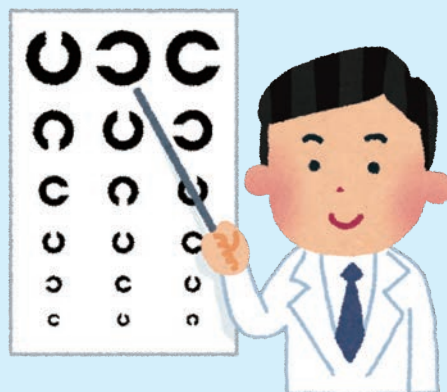
眼科 岩瀬 千絵

病診連携の先生方には平素よりお世話になっております。当院眼科にて斜視弱視専門外来を担当している岩瀬と申します。今回は斜視治療についてお話をさせていただきます。

斜視手術は見た目を整えるというイメージが強いと思いますが、実は両眼視機能を改善させるという重要な目的を持っています。患者さんは整容面での悩み以外にも様々な悩みを抱えていらっしゃいます。例えば外斜視を持つドライバーの方の中には、両眼の視線のずれから運転中に右眼で見ていた走行レーンがふとした拍子に左眼で見る走行レーンに切り替わって危険を感じたり、車庫入れで奥行き感がつかめず壁にぶつかったりすることがあります。外斜視を持つ野球少年の中には、フライ球をとろうとするも両眼の視線のずれから思った位置に球が落ちてこなかったり、疲れて視線が揃えにくくなると対戦相手がぶれて見えにくくなったりすることがあります。また後天性内斜視の患者さんは複視を感じやすく、お母さんの顔が二つに見えたり、景色がだぶって見えるために自転車での通学ができなくなったりすることがあります。このように斜視によって両眼視機能に障害を受けると患者さんは様々な悩みを持つことになります。

斜視手術は外眼筋の位置を変えて眼位を整える術式です。当院では患者さんの年齢や希望に合わせて全身麻酔（1泊2日）、局所麻酔（1泊2日あるいは日帰り）のいずれも対応しております。

斜視は命に関わる疾患ではありませんが、患者さんのQOLに深く関わる疾患と感じます。これからも患者さんと向き合い、その悩みに寄り添えるよう常に心掛けていきたいと思っております。今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。



医師交代

●令和5年2月10日付け（育休）

村井 由香里（腎臓内科 副部長）

●令和5年3月10日付け（退職）

金原 香織（外科 医師）

●令和5年3月31日付け（退職）

丸井 伸行（副院長、入院・外来診療部外来統括部長（兼務）、総合内科部長（事務取扱）、救急部長（事務取扱）、メディカルサポートセンター長（事務取扱））

坂口 憲史（副院長、外科部長（事務取扱）、消化器外科部長（事務取扱））

竹山 佳宏（第二呼吸器内科 部長）

山田 智紀（消化器内科 医師）

藤原 玄（外科 医師）

吉田 康将（産婦人科 医師）

●令和5年3月24日付け（採用）

柳川 繁雄（放射線科 医師）

●令和5年3月31日付け（補職）

藤田 芳郎（副院長、リウマチ科 部長（事務取扱）、腎臓内科 部長（事務取扱））

●令和5年4月1日付け（補職）

松尾 正樹（副院長、入院・外来診療部入院統括部長（兼務）、呼吸器内科部長（事務取扱）、医療安全管理室長（事務取扱）、アスベスト疾患センター長（事務取扱））

伊藤 圭吾（副院長、整形外科 部長（事務取扱）、中央診療部統括 部長（事務取扱））

原田 憲（副院長、入院・外来診療部外来統括部長（兼務）、循環器内科 部長（事務取扱）、臨床工学部 部長（事務取扱）、救急部 部長（事務取扱））

中川 誠（院長補佐、吸器外科 部長（事務取扱））

篠田 典宏（院長補佐、メディカルサポートセンター長（兼務）、第二循環器内科 部長（事務取扱））



水谷 哲之（院長補佐、外科 部長（事務取扱）、消化器外科 部長（事務取扱）、中央手術 部長（事務取扱）、第二救急 部長（事務取扱））

臼井 弘明（第三外科 部長）

松下 明弘（第二呼吸器内科 部長）

榊原 類（第二耳鼻咽喉科 部長）

坂元 史稔（第二泌尿器科 部長）

高橋 一臣（呼吸器内科 副部長）

牧田 和也（整形外科 副部長）

片岡 崇（循環器内科 副部長、救急部 副部長（兼務））

寺島 聖詞（循環器内科 医師）

永瀬 宏哉（腎臓内科 医師）

●令和5年4月1日付け（採用）

曾根原 玲菜（産婦人科 医師）

横井 英人（呼吸器内科 医師）

蟹江 恭和（外科 医師）

牧 稔人（脳神経外科 医師）

小山 千里（形成外科 医師）

楯山 健太（呼吸器外科 医師）

高橋 秀昂（呼吸器内科 医師）

●令和5年4月5日付け（育児休業）

土屋 佳奈江（消化器内科 医師）

●令和5年4月30日付け（退職）

奥村 衣里子（第二脳神経外科 部長）

●令和5年5月1日付け（補職）

長尾 知行（第三循環器内科 部長）

鈴木 克尚（耳鼻咽喉科 副部長）

●令和5年5月31日付け（退職）

牧 稔人（脳神経外科 医師）

●令和5年6月1日付け（採用）

水谷 高輔（脳神経外科 医師）

●令和5年6月30日付け（退職）

曾根原 玲菜（産婦人科 医師）

福島 昌浩（耳鼻咽喉科 医師）

●令和5年7月1日付け（採用）

茂木 一将（産婦人科 医師）

茂木 綾（耳鼻咽喉科 医師）

●令和5年7月1日付け（復職）

村井 由香里（腎臓内科 医師）



地域医療連携室からのお知らせ

大腸カメラのご予約について

時下益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より、当院の地域連携について、ご理解をいただき、誠にありがとうございます。

さて、この度、大腸カメラをご予約いただいた患者さんの服薬情報が事前に得られず、生検を後日行うという事例があり、患者さんに大変ご迷惑をおかけいたしました。

つきましては、以下の内容にご留意いただいた上で、ご予約いただきますよう、よろしくお願いいたします。



- ①現在服用されている**薬剤情報の記入**をお願いいたします。
- ②下記項目に1つでも該当する患者さんにつきましては、大腸カメラの予約ではなく、まずは、**消化器内科の診察予約**をお願いいたします。(大腸カメラ希望である旨ご記載ください。) 診察の結果、検査可能となった場合、当院にて大腸カメラの予約をとらせていただきます。

記

- ・腸閉塞疑いのある方
- ・認知症で付き添いのない方
- ・難聴で付き添いのない方
- ・ADL困難で付き添いのない方



消化器内科を予約



大腸カメラはインターネット予約システム（カルナコネクト）を利用してご予約いただくことも可能です。インターネットに接続したパソコン（Windows、MAC、モバイル端末いずれにも対応）とプリンターがあれば、簡単なお申込みで、24時間365日、簡単な操作で検査予約をとることができます。

申込方法：地域医療連携室（052-652-5950）へご連絡いただきますと、申込用紙を当院より郵送いたします。申込用紙記入後は返信用封筒にてご返送ください。

メディカルサポートセンター

(平日 8:15~19:30)
(TEL) 052-652-5950
(FAX) 052-652-5716

センター長：篠田 典宏（院長補佐）
副センター長：鈴木 陽子（看護副部長）
副センター長：庄山 武（医事（連携）課長）
連携係長：酒井 伸郎（入院係長）
事務担当：今枝 智子・前川 希美枝・安井 正幸

広報委員長：循環器内科 篠田 典宏

編集担当：脳神経内科 上條 美樹子
医事課員 今枝 智子

皮膚・排泄ケア認定看護師 櫻井 由紀子

